

『大人の修学旅行「国宝絵巻・鳥獣戯画全四巻」を観る』

研修日程：10月22日(水)～10月23日(木)

となみ芸術文化友の会会員 山勢慶三

この度、となみ芸術文化友の会の研修会に参加して、とても楽しい旅行が出来ました。同行の皆様方、お世話下さった方々に厚くお礼申し上げます。

我ながら足腰の弱さがこれ程とは、思いませんでした。彦根城周辺の散策に人力車の世話になるとは、思いもよらない事でした。

外壕一周を回ってみようと妻と歩み始めたのですが、10分も持たずにダウン。戻ろうかと思っていると斜め前方に、人力車を止めて、こちらを見ている若い車人と目が合い、渡りに船と頼んでしまいました。

この人力車の青年のお陰で、楽しい彦根城の説明を聞きながら、30分、みなさんとの昼食の時間まで間に合い、ホットして戴いた、近江牛のせいろ蒸し付き鎧弁当のおいしかったこと。

昼食後の日程に組まれていた、石塔寺での百六十数段の石段を登って、日本最古の阿育王塔と無数の石塔群の見学は、皆さんにお任せして、本堂周辺で休ませてもらい、この次の滋賀県立近代美術館30周年特別展に、備えました。それでも館内に入って車椅子の並んでいるのを見つけた妻が、これで見廻る方がよいのではと、すすめてくれて、思い切って乗って観せてもらうことにしました。

砺波の美術館でみた小倉遊亀の作品もあり、なつかしく思ったり、初めての作品もあったり、安田靉彦(ゆきひこ)の作品は、画集で観た本物がある等、50年以上前の絵を描く事に夢中になっていた若い頃を思い出しました。お陰で腰の重さも忘れ、遊亀の作品「径」等、おもわず笑いがこぼれる楽しい時間が持てました。

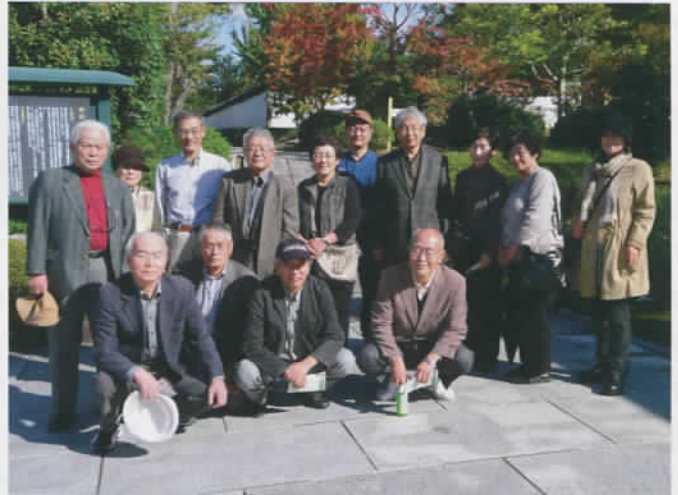
晩には、宿のホテルピアザびわ湖での夕食会は、洋風・和風ミックスの懐石料理のようにほど良い時間をおいて、一品づつ出てくる楽しく珍しい品々の食事でしたが、御品書きがないのが物足りない気がしました。

二日目の智積院と京都国立博物館・清水寺界限めぐりは、初日の小雨模様の曇天とは違い、晴天に恵まれ、気分も壮快、足腰も軽くとはいきませんが、順調に歩みを進めることが出来ました。

久方ぶりの京都で、しかも国宝「鳥獣戯画」との五十数年ぶり再開ですから、気分も高揚していたのか、昨日の人力車・車椅子のことが、嘘のようでした。

京都国立博物館への入館待30分、入ってからお目当ての戯画に行きつくまで、高山寺縁起や経典類は「猫の小判」と素通りして10分余り、それから恋人の甲乙丙丁にゆっくり、おめでとうりをして不思議な絵、だれが描いて、何の為に、お寺に納めたのか、平安時代の作品と鎌倉時代の作品が仲良く生き延びて来れたのは何故か。現代日本のマンガのルーツ。遠い昔に線描であれだけの線が引けるのには・・・等々考えてしまいます。約束の集合にやっと間に合い、新装なった平成知新館のオープン記念展は、今回の旅では、残念ですが又の機会にお預けになりました。

楽しみみなさんとの昼食は、計画されていた京弁当をいただき、食後のコーヒーは少し歩いて産寧坂のイノダコーヒー店で、大きな窓越しに、日本庭園を鑑賞しながら、ゆっくりとした、ぜいたくな時間を過ごさせて戴きました。15人の皆さんの中で妻共々に楽しく良い思い出を作らせてもらいました。ありがとうございました。



—総本山智積院にて—

『「越中真言の古刹 芹谷山千光寺の至宝」展の展示について』

会期：11月8日(土)～12月14日(日)

砺波市美術館 学芸員 末永忠宏

「越中真言の古刹 芹谷山千光寺の至宝」展は、砺波市合併10周年記念事業、砺波郷土資料館、となみ散居村ミュージアムとの3館共同企画展である。4年前におなじ体制で開催した「砺波の真宗風土」展に続く実行委員会形式での運営。実務は3館に関わる職員らがあたった。そこで、どのような展示にするのか、どのように選定・展示するのか、どのような図録にするのかなどを具体的に協議した。手前から申すのも何だが、その成果は今回の図録に具現されている。学術方面で著名な外部執筆者複数の論考をも収載したもので、いま考えうる千光寺関係すべてを掲載したつもりである。図録は既に刊行されているので、ここでは砺波市美術館の展示構成について簡単に述べてみたい。

会場は大まかに「千光寺の寺宝」、「千光寺の絵画」、「千光寺の彫刻」にコーナー分けした。これは見せ方としてのひとつの工夫である。青い背景色に輝くズームアップした観音像の印象的なバナーを認め右手に入ると、地藏堂、山門、観音堂、土蔵の写真パネルが並ぶ。『万華鏡』で知られる写真家・風間耕司さんの撮影。地藏堂に安置されている弘法大師空海の石像を拝んだ後で、真言密教寺院としての貴重な絵画が並ぶコーナーへ導かれる。ふりむけば閻魔王の像が忿怒の形相で座している。「不動明王像」や躍動感にみちた「大威徳明王図」(県指)、精緻な彫刻の「愛染明王坐像」など、真言密教のさまざまな仏のすがたを展示。



—展示風景—

特別に許しを得て、大半の寺宝が露出展示となっている。会場中央部には展示壁があり、安念余志子さんの写真を10点展示してある。

前田常作さんの遺作「千光寺・観音の光」は平版刷りによるものだが17版28度刷りの労作。千光寺の天空たかくに光の本尊。さらには開基法道上人を修験者の姿で描き出した図様である。十二の函に納められた「大般若経 三百帖」(鉄眼経といわれる)と、経典及び信奉者を守護する「釈迦十六善神像」。お釈迦様。台座彫刻も見事な「観音菩薩立像」、「両界曼荼羅図」対幅ふたつ(ひとつは県指)。灌頂用具の「敷曼荼羅」や、「大涅槃図」「三千仏名」などの大幅がならぶ。阿弥陀様も寺宝としてある。



—展示風景(彫刻コーナー)—

彫刻コーナーには「増長天」「多聞天」を両脇に、「五智如来」が横ならびに陳列してある。千光寺の客殿に安置されているもの。他に密教法具を展示。千光寺ご本尊の秘仏は当コーナーにパネルとしてお出まし願った。

最終コーナーには「秀吉禁制」一面と「利長書状」三幅対が掛けられ、その傍らに平成の千光寺大調査の成果の顕れとして、貴重な古書類をのぞきケースに陳列してある。6000冊という古書分類は有志によるボランティア活動「平成の大調査」の成果である。

地質レーダーや建立年代の同定の報告、古銭、土器類が陳列されている点も千光寺のルーツを探る上で注目されてよい。



エントランスの賓頭盧尊者は触ってもらってよい。撫でると体が治る御利益のある撫仏である。

公共施設の展示としては21年ぶりとなるこの度の展覧は各方面の多大な支援の下、あらゆる方面から検討と工夫がはかられた充実の内容となっているといえようか。

館蔵品展『コレクションにみる イメージの冒険』

会期：平成27年1月10日(土)～2月1日(日) (1月19日(月)は施設点検のため観覧できません)

砺波市美術館では1997年の開館前より収集を開始し、現在までに日本画、洋画、版画、素描、立体造形、工芸、書、写真の他、資料を含めて1,200点を超える多様な作品を収蔵しています。近年では形や色彩などテーマを絞った展示構成を行いながら収蔵作品を紹介してきました。本展では、新収蔵品も交えながら季節をイメージさせる作品を展示紹介します。



清原 啓一「八ツ峰の秋」(1994)

- 観覧料 一般200円(160円) 高校生以下、身障者(介護者1名を含む) 無料
()内は20名以上の団体、65歳以上の割引料金、(常設展観覧料含む)
- 主催 公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団・砺波市美術館
- 後援 となみ芸術文化友の会・となみ衛星通信テレビ・エフエムとなみ

『第16回 至高の精神展 IN SPIRITU ALTISSIMO』 尾崎真理 展

会期：平成27年1月31日(土)～3月1日(日)
(2月9日(月)、16日(月)は施設点検のため、観覧できません)

至高の精神展 IN SPIRITU ALTISSIMOは、多様な展開を見せる現代美術の分野で活躍している作家を紹介する展覧会です。第16回目となる今回は、朝日町在住の画家 尾崎真理(おざき まり)さんの作品を紹介します。

尾崎さんは、1961年富山県朝日町に生まれます。2002年から日本画家の清河恵美氏に師事し本格的に創作活動を始め、公募展や個展などで精力的に作品発表を行っています。2006年と07年の「越中アートフェスタ」では平面部門で優秀賞を受賞、2009年には大賞を獲得し一躍注目を集めました。彼女の作品は、動物や昆虫の姿を大きな画面に描き出します。そののびやかで屈託のない明るさは、見る人までも楽しくさせる魅力に溢れています。



「ハレルヤ」(2012)

今回の展覧会は、近作を中心に新作を加えて会場構成を行い、尾崎真理さんの世界を紹介します。

- 会場 砺波市美術館 2階市民ギャラリー 観覧無料
- 主催 公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団・砺波市美術館・北日本新聞社
- 後援 北日本放送・富山テレビ放送・チューリップテレビ・となみ芸術文化友の会・となみ衛星通信テレビ・エフエムとなみ

～砺波市合併10周年記念事業～

『オリジナルミュージカル「STATION」について』

砺波市文化会館企画係 館 宏明

今回皆様を紹介するのは、砺波市合併10周年記念事業として開催されるオリジナルミュージカル「STATION」です。

このオリジナルミュージカルは、オリジナルミュージカル「STATION」実行委員会、となみミュージカルキッズを応援する会、砺波市花と緑と文化の財団（砺波市文化会館）が主催するものです。

8月30日(土)に出演者オーディションを実施しまして、31日(日)から稽古を始めました。稽古は、毎週土曜日に砺波市文化会館を中心に行われており、台詞、歌、踊りを一生懸命取り組んでいるところです。



－練習風景－

開催日は平成27年3月7日(土)午後6時半開演(午後6時開場)、3月8日(日)午後1時半開演(午後1時開場)となっております。チケット好評発売中で、指定席が1,500円(大人・高校生以下共通、当日同額)、自由席は高校生以下が500円(当日700円)、大人が1,000円(当日1,200円)となっております障がい者手帳のお持ちの方は半額とさせていただきます。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

監修の荒巻正先生(Atelier ONE's HEART 代表)は出演者に対して時には厳しく、時には優しくの指導のもと稽古は続けられております。

出演者は本番に向けて一生懸命稽古をしているところで、出演者の頑張りを観に砺波市文化会館へ足を運んでいただければ幸いです。



－編集後記－

10月、「14歳の挑戦」で、4名の中学生が美術館に来た。「美術館の仕事といっても、正直あまり思いつかず、何をするのかと思っていました。実際に活動してみると、作品の展示や広告の配布する仕事など多くの活動があり、驚きました。とくに作品の展示は、人の視線や全体の配色などの調整をすべて手作業でやっていることを知り、細かい気配りがされているのだなと感心しました。」学芸員に必要なのは「1に体力、2に愛嬌、3、4が無くて5に知力」と言われる。台風の影響もあり4日間の研修であったが、多くのことを学んで行ってくれたと思う。(0)



－研修会、彦根城での人力車－

好きだからつよぶつけた雪合戦 風天(渥美清)